【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成25年8月8日(2013.8.8)

【公開番号】特開2012-161656(P2012-161656A)
【公開日】平成24年8月30日(2012.8.30)
【年通号数】公開・登録公報2012-034
【出願番号】特願2012-100754(P2012-100754)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０

【手続補正書】
【提出日】平成25年6月25日(2013.6.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
第１始動条件の成立にもとづいて各々を識別可能な複数種類の第１識別情報の可変表示を行う第１可変表示手段、または第２始動条件の成立にもとづいて各々を識別可能な複数種類の第２識別情報の可変表示を行う第２可変表示手段に導出表示される表示結果があらかじめ定められた特定表示結果となったときに遊技者にとって有利な特定遊技状態に移行させる遊技機であって、
前記第１始動条件が成立したにもかかわらず未だ開始されていない前記第１識別情報の可変表示に関する情報を保留情報として記憶する第１保留記憶手段と、
前記第２始動条件が成立したにもかかわらず未だ開始されていない前記第２識別情報の可変表示に関する情報を保留情報として記憶する第２保留記憶手段と、
保留情報にもとづいて前記第１識別情報または前記第２識別情報の可変表示の実行を開始するときに、前記特定遊技状態とするか否かを決定する事前決定手段と、
前記事前決定手段の決定結果にもとづいて、前記第１識別情報の可変表示または前記第２識別情報の可変表示を実行するとともに、前記第１識別情報の可変表示よりも前記第２識別情報の可変表示を優先して実行する可変表示実行手段と、
前記第１始動条件が成立したときまたは前記第２始動条件が成立したときに、前記第１保留記憶手段または前記第２保留記憶手段に記憶される保留情報にもとづいて、前記特定遊技状態となるか否かを判定する始動条件成立時判定手段と、
前記始動条件成立時判定手段によって前記特定遊技状態となると判定されたことにもとづいて、当該判定対象となった前記第１識別情報または前記第２識別情報の可変表示が開始される以前に、特定演出を実行する特定演出実行手段と、
通常状態と比較して前記第２始動条件が成立しやすい有利遊技状態に制御する有利遊技状態制御手段とを備え、
前記特定演出実行手段は、
前記有利遊技状態に制御されているときには、前記第１識別情報の可変表示を対象とした前記特定演出を実行せず、
前記通常状態に制御されているときには、前記第２識別情報の可変表示を対象とした前記特定演出を実行しない
ことを特徴とする遊技機。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
特許文献１に記載された遊技機では、複数の可変表示手段を備えるように構成した場合に、特定遊技状態終了後に有利遊技状態に移行し、第２の可変表示手段における識別情報の可変表示を優先実行する場合には、特定演出を実行可能に構成すると、有利遊技状態中に第１の可変表示手段に特定表示結果が導出表示されて特定遊技状態となると判定されたことにもとづき特定演出を実行してしまうと、有利遊技状態中に実行される第１の可変表示手段における識別情報の可変表示の表示結果が特定表示結果となる可能性が高いことを遊技者に認識されてしまう。この場合、特定遊技状態終了後に有利遊技状態に移行した場合には第２の可変表示手段における識別情報の可変表示が実行されやすくなるとともに第２の可変表示手段における識別情報の可変表示が優先して実行されるのであるから、第２の可変表示手段における識別情報の可変表示が途切れないようにして第２の可変表示手段における識別情報の可変表示を連続して実行させて、第１の可変表示手段における識別情報の可変表示の表示結果として期待される特定表示結果を保留したまま第２の可変表示手段における識別情報の可変表示にもとづく特定遊技状態を狙うことが可能となってしまう。すると、第１の可変表示手段における識別情報の可変表示にもとづく特定遊技状態と第２の可変表示手段における識別情報の可変表示にもとづく特定遊技状態との２回の特定遊技状態が連続して発生する状態を遊技者の技術介入により狙われやすく、射幸性が高くなりすぎる事態が生じてしまう恐れがある。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
そこで、本発明は、遊技者の技術介入により特定遊技状態を連続して発生させることを故意に狙われることを防止できる遊技機を提供することを目的とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
本発明による遊技機は、第１始動条件の成立にもとづいて各々を識別可能な複数種類の第１識別情報の可変表示を行う第１可変表示手段、または第２始動条件の成立にもとづいて各々を識別可能な複数種類の第２識別情報の可変表示を行う第２可変表示手段に導出表示される表示結果があらかじめ定められた特定表示結果となったときに遊技者にとって有利な特定遊技状態に移行させる遊技機であって、第１始動条件が成立したにもかかわらず未だ開始されていない第１識別情報の可変表示に関する情報を保留情報として記憶する第１保留記憶手段と、第２始動条件が成立したにもかかわらず未だ開始されていない第２識別情報の可変表示に関する情報を保留情報として記憶する第２保留記憶手段と、保留情報にもとづいて第１識別情報または第２識別情報の可変表示の実行を開始するときに、特定遊技状態とするか否かを決定する事前決定手段と、事前決定手段の決定結果にもとづいて、第１識別情報の可変表示または第２識別情報の可変表示を実行するとともに、第１識別情報の可変表示よりも第２識別情報の可変表示を優先して実行する可変表示実行手段と、第１始動条件が成立したときまたは第２始動条件が成立したときに、第１保留記憶手段ま

たは第２保留記憶手段に記憶される保留情報にもとづいて、特定遊技状態となるか否かを判定する始動条件成立時判定手段と、始動条件成立時判定手段によって特定遊技状態となると判定されたことにもとづいて、当該判定対象となった第１識別情報または第２識別情報の可変表示が開始される以前に、特定演出を実行する特定演出実行手段と、通常状態と比較して第２始動条件が成立しやすい有利遊技状態に制御する有利遊技状態制御手段とを備え、特定演出実行手段は、有利遊技状態に制御されているときには、第１識別情報の可変表示を対象とした特定演出を実行せず、通常状態に制御されているときには、第２識別情報の可変表示を対象とした特定演出を実行しないことを特徴とする。

そのような構成によれば、有利遊技状態中に第１可変表示手段における第１識別情報の可変表示により特定遊技状態となる可能性を認識できないようにすることによって、遊技者の技術介入により特定遊技状態を連続して発生させることを故意に狙われることを防止することができる。